※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | 405 |
|---|---|

# 令和５年度　地歴公民科

| 教科 | 地理歴史科 | 科目 | 日本史探究 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 東京書籍「日本史探究」（日探 701） | | | | | | |
| 副教材等 | 東京書籍「要点マスター　日本史探究」 | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会が成り立つまでの歴史的経緯を知る。
・歴史上の様々な事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史・地理を踏まえ、現代の社会的課題を考える。

## ２　学習の到達目標

a. 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
b. 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
c. よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。<br>○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かる効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 | ○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、次期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。<br>○考察､構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。 | ○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。<br>○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元（題材）の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 第1編　先史・古代の日本と東アジア | 第１章　先史社会の生活と文化<br>１　旧石器時代の日本<br>２　縄文文化<br>３　弥生文化と小国家の形成<br>第２章　歴史資料と先史・古代の展望<br>１　先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質<br>２　東アジアとの交流のなかでうかびあがる歴史<br>３　木簡が語る律令国家の実態 | a:先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、先史・古代の日本と東アジアに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。<br>b:先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。<br>c:先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。 | 定期考査・ワークシート | 定期考査・ワークシート | ワークシート |
| | | 第３章　古代社会の形成と展開<br>１節　律令国家の形成と古代文化の展開<br>１　大和王権と古墳文化<br>２　飛鳥の朝廷と文化<br>３　律令国家の形成と白鳳文化<br>４　平城京と天平文化<br>２節　摂関政治と貴族文化<br>１　平安遷都と唐風文化<br>２　貴族社会と摂関政治<br>３　国風文化 | a:国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。<br>b:中国大陸や朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。<br>c:第１編「先史・古代の日本と東アジア」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 | 定期考査・ワークシート | 定期考査・ワークシート | ワークシート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ２学期 | 第２編　中世の日本と世界 | 第１章　中世社会の成立<br>１　朝廷政治の変容<br>２　武士の政治進出<br>第２章　歴史資料と中世の展望<br>１　武家権力による日本社会の変容<br>２　厳しい自然環境での人々の生存戦略<br>３　中世日本の国際交流<br>第３章　中世社会の展開<br>１節　武家政権の成立と朝廷<br>１　鎌倉幕府の誕生<br>２　執権による政治<br>３　モンゴル襲来と社会の変貌<br>４　鎌倉の仏教と文化<br>２節　武家支配の広がりと国際交流<br>１　南北朝の動乱と室町幕府の成立<br>２　倭寇と東アジア国際交流<br>３　室町時代の社会と経済活動<br>４　自立する戦国大名<br>５　室町文化 | a:中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、中世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。<br>b:中世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。<br>c:中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。<br>第２編「中世の日本と世界」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 | 定期考査・ワークシート | 定期考査・ワークシート | ワークシート |
| | 第３編　近世の日本と世界 | 第１章　近世社会の形成<br>１　地球的世界の形成と日本<br>２　織豊政権による全国統一<br>３　桃山文化<br>第２章　歴史資料と近世の展望<br>１　参勤交代と幕藩体制<br>２　百姓たちの生活世界<br>３　江戸時代の対外関係<br>第３章　近世社会の展開<br>１節　幕藩体制の確立<br>１　江戸幕府と大名・朝廷<br>２　近世の身分と人々の暮らし<br>３　アジアのなかの幕藩体制<br>４　武断政治から文治政治へ<br>５　幕藩体制下の社会の発展<br>２節　近世社会の成熟と幕藩体制の動揺<br>１　享保の改革と経済の発展<br>２　近世社会の成熟と危機の始まり<br>３　幕藩体制の立て直し<br>４　幕藩体制の動揺 | a:近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、近世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。<br>b:近世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。<br>c:近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。<br>第３編「近世の日本と世界」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 | 定期考査・ワークシート | 定期考査・ワークシート | ワークシート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ３学期 | 第４編　近現代の地域・日本と世界 | 第１章　近代社会の幕開け<br>１　開国と開港<br>２　幕府の崩壊と明治維新<br>第２章　歴史資料と近現代の展望<br>１　資本主義の発展と生活<br>２　国民国家と政治参加<br>３　世界のなかの近現代日本<br>第３章　近現代社会の展開<br>１節　近代的制度の導入と新しい国際関係<br>１　制度改革と殖産興業政策<br>２　文明開化と教育制度の整備<br>３　東アジア世界のなかの明治政府<br>４　政府専制への批判<br>２節　国民国家と資本主義の成立<br>１　立憲政治の成立<br>２　対外関係の変容と日清戦争<br>３　産業革命と資本主義の定着<br>４　教育制度の整備と新しい文化<br>５　日露戦争と帝国日本<br>６　日露戦争後の社会と政治<br>３節　両大戦間期の日本<br>１　都市化・重工業化と生活の変化<br>２　政党政治とデモクラシー<br>３　国際社会のなかの日本<br>４節　第二次世界大戦と日本<br>１　昭和恐慌と立憲政治の動揺<br>２　中国侵略と戦時体制への移行<br>３　戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開<br>５節　占領と改革<br>1　占領と日本国憲法の成立<br>２　冷戦の開始と経済復興<br>６節　国際社会への復帰と高度経済成長<br>１　国際社会への復帰と対米協調<br>２　高度経済成長<br>７節　アジア情勢の変化と経済大国日本<br>１　1970 年代の国際社会と日本<br>２　安定成長への転換<br>８節　新しい国際秩序と日本の課題<br>１　激変する世界と日本<br>２　21 世紀の日本<br>第４章　現代の日本の課題の探究<br>１　社会や集団と個人<br>２　世界のなかの日本<br>３　伝統や文化の継承と創造 | a:近現代の地域・日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、近現代の地域・日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。<br>b:近現代の地域・日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。<br>c:近現代の地域・日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。<br>第４編「近現代の地域・日本と世界」における学習の経緯について、自身との関わりをふまえて振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。<br><br>a:先史・古代、中世、近世、近現代の学習をふまえて、現代の日本の課題を理解している。<br>b:先史・古代、中世、近世、近現代の学習で表現した歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現している。<br>c:先史・古代、中世、近世、近現代の学習を振り返り、自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。 | 定期考査・ワークシート | 定期考査・ワークシート | ワークシート |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度